福島

南向台で新たに調査

線量詳細 661地点あすと25日

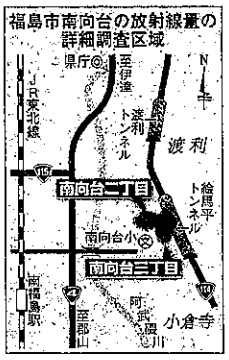
政府の原子力災害現地対策本部と県災害対策本部は二十四、二十五の両日、新たに福島市の南向台二丁目の四百四十五地点、南向台三丁目の二百十六地点の計六百六十一地点で放射線量の詳細調査を行う。両対策本部が二十二日に発表した。

線量の値が局地的に高い地点が見つかった場合、市と協議して特定避難勧奨地点に指定するかどうかを判断する。

七月五日から三日間実施した自動車走行サーベイ調査で、線量の値が比較的高かった南向台三丁目と三丁目での調査を決めた。

電気事業連合会を構成する事業所の従業員や県職員ら約四十人が宅地の庭と玄関先で地表面から高さ五十㌢と一㍍の空間線量を測定する。

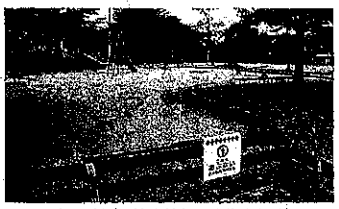
市内ではこれまでに、大波地区の三百七十地点で詳細調査が終了したほか、渡利、小倉寺両地区の合わせて千八十一地点で調査が続いている。



「遅い」「指定でも行き場ない」
住民が批判や不安

放射線量の詳細調査の実施について、南向台三丁目の看護師高根篤子さん(㌔)は「調査に入るのが遅い。一刻も早く特定避難勧奨地点に指定してほしい」と訴える。

高根さんは原発事故後の四月に長男を出産した。出産直前まで散歩していた南向台三号公園は一時、高い値の放射線量が測定された。五月に放射線測定器を購入し、家の中を測ると毎時一㌢㌧を超えていた。子どもへの影響を心配し、自主避難先として山形市にアパートも借りたという。「避難経費をしっかりと補償してほしい」と求めた。


高い値の放射線量が測定され、表土除去が行われた福島市の南向台3号公園

南向台小の五月一日現在の児童数は二百四人。今月十九日までに区域外就学を決めた児童は八人おり、夏休み期間中に四人増えた。

北堀藤江さん(㌔)は同居する小学三年生と幼稚園児の孫二人の健康を気に掛け、「息子夫婦は仕事があるので指定されても行くところがない」と不安を口にする。

南向台二丁目の主婦PTA役員の一人は「避難できない家庭もあるので、調査結果にもとづき一日も早い除染をしてほしい」と注文した。

伊達市
来月中にも本格除染
勧奨地点の民家から開始

市内全域の除染を目指す伊達市は、来月中にも民家を対象にした本格的な独自の除染作業を開始する。仁志田昇司市長が二十二日、福島市で開かれた県市長会で示した。

放射線量の値が局地的に高い「ホットスポット」に当たる避難勧奨地点に指定された住宅から行う考えで、九月定例議会に除染費用を盛り込んだ補正予算案を提出する予定。

特定避難勧奨地点に指定された市内霊山町の上小国、下小国、石田、月舘町相葉(あいより)地区の百十三世帯をはじめ、同地区の妊産婦や小学生以下の子どもいる世帯などからの実施を検討している。今回の対象は百～二百世帯になる見通しで、市が地元などの建設業者に委託して玄関先や庭、屋根などを除染する。

これまで市は委嘱した除染アドバイザーや専門業者らと共に実証実験を重ね、住民用や業者用のマニュアルづくりに取り組んできた。

作業は専門家の指導を受けながらマニュアルも活用する。

市は既に学校や幼稚園、保育園での除染活動を進め、校庭の表土除去、プールの水の浄化作業などに着手し比較的放射線量の値が高い学校からコンクリートの表面を削り取る作業なども始めている。

二本松市
独自に4地区479世帯の屋内調査

居間などの空間線量を測る市職員（右）

二本松市は二十二日、自動車走行サーベイ調査などで比較的高い値の空間放射線量が確認された四地区の計四百七十九世帯で屋内の線量調査を開始した。

政府の原子力災害対策本部と県災害対策本部が特定避難勧奨地点の指定検討も視野に今月中に詳細調査を実施する世帯を対象にしている。詳細調査は玄関先や庭などで行われるが、屋内の調査を望む市民も多く、市独自に取り組んだ。

市の担当者が五班編成で杉田、笹下、大平、小浜各地区の対象世帯を巡り、居間や子ども部屋など一軒につき一、二カ所を測定している。結果は各世帯に示すとともに、今後の対策の参考にする。

測定を受けた杉田地区の農業男性(㌔)は「周辺の線量を家族も気にしている。避難するほどでなくても地域の除染は進めてほしい」と注文した。

南相馬市
除染計画まとめる
警戒区域など除き 公共施設や通学路

南相馬市は二十二日までに警戒区域や計画的避難区域などを除く市内の公共施設や通学路の除染計画をまとめた。(12面に関連記事)

緊急時避難準備区域外の学校や幼稚園は二学期が始まる二十五日までに除染を終える。同区域内の学校などの教育施設は区域の解除を想定し、今月下旬から九月下旬にかけて除染する。学校以外の公共施設や通学路は、東京電力福島第一原発から三十㌔圏外で現在使用している施設を優先する。

警戒区域内の施設は同区域解除後に除染計画を作成する方針。

市は八、九両月を市内除染強化月間とし、施設の放射線量の半減を目指している。将来的には年間一㍉㌧未満を目標にしている。

積算線量測定バッジ配布へ

南相馬市が妊婦らに

南相馬市は一定期間の個人の積算放射線量を測定するバッジ式線量計「ガラスバッジ」を妊婦と十八歳以下の子どもに配布し、十月一日に測定を始める。

対象は市内在住か、市内に住所がある県内在住の希望者。約一億六千五百万円の予算を計上し、約一万人分を確保する。

十月一日～十二月二十三日、十二月二十三日～三月十日の二回に分けて測定する。結果は対象者に知らせる。

申し込みは市内の小中学生は二十五、二十六の両日に申込書を各校へ提出。妊婦や乳幼児、高校生、県内に避難している対象者は二十四日までに申込書を郵送やファクス、市のホームページ子申請、原町タターの窓口で申し込む。問い合わせ

松江市の会社が市長に除染報告
南相馬で作業

高濃度の放射性セシウムが検出された南相馬市の小学校のプールで、除染作業に成功した汚水処理会社「ネオ

檜葉で震

二十二日午分ごろ、檜葉4の地震が気象庁によるは本県沖で、さは約五〇㌔規模はマグ(M)4・5れる。県内の通り。

▽震度4＝檜＝いわき平四ツ

室内庁は七十歳以上一月十九日皇居・吹上御観察会の参初始めた。

皇居に残る民と共有した皇陛下の思い

ナイト」（松寺山文久社日、放射能与し協力した松浦正敬市長活動結果を報水処理施設ろなどころに用したい」と負を語った。

後外気接触の草与える

浪江汚染牛の原因特定

出荷停止解除を要請

浪江町の農場から出荷された十二頭の牛から食品衛生法の暫定基準値（一㌔当たり五〇〇㍍）を上回る放射性セシウムが検出された問題で、県は二十二日、東京電力福島第一原発事故後、外気に触れる状態にしていた輸入干し草を牛に与えたことが汚染の原因とする調査結果を発表した。今は原発事故により三月十四日、畜舎の通路に大量の干し草を置いて避難した。一週間ほどで農場に戻り、通路にあった餌を牛に与えたという。通路には屋根が設置されていたが、外気が干し草に触れる構造だった。

農場周辺は四月十一日時点で毎時二四・七㌔㌧と高い値の放射線量だったことから、県は放射性セシウムに汚染された干し草を牛が食べていたと分析している。与えていた水は井戸水だったが、井戸にはふたが閉められ、外気にさらされる状態ではなかったという。

郡山、いわきなどで販売

頭の流通経路の調査結果を発表した。

郡山、いわきの両市を含む県内の食肉店で八二・八㌔㌧が販売されたほか、宮城、山形、愛媛、埼玉の各県の食肉店や飲食店、家庭でも販売、消費された。残品がなく、放射性セシウムが含まれていたかどうかは分からないという。

判明した牛の個体識別番号は「0833 21－0173 9」。

5年程度に短縮へ
災害公営住宅払い下げ 特例で調整

政府は二十二日までに、仮設住宅などにいる被災者が優先で入居できる災害公営住宅について、木造一戸建ての場合は現行で七年半以降となっている払い下げが可能となる時期を、五年程度に短縮する特例措置を設ける方向で調整に入った。

自宅を失った被災者に住宅取得の機会を増やす狙い。秋の臨時国会に提出予定の復興特別措置法案に盛り込むことを検討している。

災害公営住宅は最大五万戸程度必要との見方があり、秋以降に建設が始まる見通し。木造の場合は耐用年数が三十年とされ、現状では耐用年数の四分の一が過ぎれば入居者が土地付きで買うことができる。

となり、長袖や上
市民ら＝福島市

十二日の県内は前線の影響で雨の所が多く、冷たい北よりの風が入り込んだため気温が上がらなかった。最高気温は白河市で二〇・一度など各地で肌寒い一日となった。

長袖や上着
肌寒い一日

福島市の最高気温は二一・二度で十月中旬並みの涼しさとなり、JR福島駅東口では長袖や上着を羽織る市民らの姿が目立った。

きょう「処暑」

ニュースフ

◆中村歌昇さ
襲名で浅草
三代目中村
名する歌舞伎
歌昇さん(㌔)
日、九月の襲
の成功を願い、